

一生に何回かは机にしがみついても勉強を
—高校受験・大学受験はその練習—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：高校入試や大学入試のための受験勉強は高校や大学に合格するための勉強だと思っていたのですが、それ以外にも意味があるとは驚きです。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)もちろん、受験勉強は高校入試や大学入試を突破し、希望校に合格を果たすために必要不可欠です。
- (2)ただし、高校入試には、小学校と中学校での学習内容を受験勉強を通じて「理解」・「定着」させて高校に進学するという意味があります。高校での学習は、小学校・中学校の学習内容を「理解」・「定着」していることが前提となるからです。
- (3)また、大学入試には、高校での学習内容を受験勉強を通じて「理解」・「定着」させて大学に進学するという意味があります。大学での学習は、高校の学習内容を「理解」・「定着」していることが前提となるからです。
- (4)これに加えて、高校入試、大学入試の受験勉強には、学校を卒業後の人生の中で何回か生じる机にしがみついても、また、机にかじりついてでも勉強しなければならない場合の練習にもなるという意味があります。

Q：机にしがみついても、また、机にかじりついてでも勉強しなければならないというのは、どういうことですか。

- A：(1)これからの社会は知識が基礎となった知識基盤型社会、英語でいうと Knowledge Based Society(ナレッジ・ベイスト・ソサイアティ)ですので、難しい課題を解決し、ものごとを成し遂げるには、学校での学習に付け加えて、自分の力でそれ以上の知識や情報、技術を身に付け、それらを上手に組み合わせることが求められます。
- (2)そのようなときには、文字通り「机にしがみついても、また、机にかじりついてでも勉強しなければならない」と私は考えます。眠る時間を削ってでも、寝食を忘れてでも、四六時中(しろくじちゅう)・始終・常に・日夜を問わず一心不乱(いっしんふらん)に勉強し続けなければならない時期が、学校を卒業後の皆様の人生には何回かあると私は確信します。
 - (3)そのような大切なときに、学校時代にあまり勉強しなかった人が一心不乱の激しい勉強を急にすることができるかといえば、なかなか難しいと思います。勉強しなければならないというやる気がいくらあっても、激しい勉強をしたことのない人は体がついていきません。
 - (4)高校入試や大学入試などの入学試験のために行う受験勉強は、一生に何回かしなければならない「机にしがみついても、また、机にかじりついてでも勉強する」という熱心な勉強のよい練習にもなると私は考えます。

Q：学校を卒業してからも勉強しなければならないとは驚きました。本当ですか。

A：(1) 本当です。本当の勉強は、学校を卒業してから自分一人でする勉強です。

(2) 仕事や社会的活動をする場合を想像して下さい。今は、社会の様子がどんどん変化し続ける上に、社会の抱える大切な課題がいくつも重なり合っています。これに加えて、外国との関係が深いグローバル化がどんどん進んでいる上に、先ほど述べた知識基盤型社会になっています。そのため、一つの仕事や一つの社会的活動をするときにはかなりの勉強をしなければなりません。学校での勉強だけでは全く不足です。

(3) 社会人は仕事や社会的活動をしながら勉強する機会が多いので、自分で学習方法をよく工夫し、必要な勉強を効率よく自分の力でする必要があります。最も求められるのは、自分で学習する能力を自分の力で育てること、つまり「自己学習能力の育成」です。

Q：「自己学習能力の育成」ですか。どこかで聞いたことがありますね。

A：(1) 「自己学習能力の育成」は、「開倫塾の教育目標」です。

(2) 開倫塾のすべての教職員の願いは、皆様が開倫塾に在籍している間に、補習と受験勉強を通して各学校での学習内容を正確に身に付けると同時に「自分なりの学習方法」を身に付け、高校や大学などの上級学校に進学してさらに充実した勉強をしてもらいたいことです。

(3) これに加えて、補習や受験勉強を通して、学校を卒業後の人生で皆様が何回も行わなければならないと思われる「机にしがみついても、また、机にかじりついてでも勉強する」ときに困らないだけの「体力」と「気力」を身に付けてもらいたいことです。

(4) 上級学校での勉強にも、社会に出てからの勉強にも共通して求められるのが、「自己学習能力」です。この「自己学習能力」を自らの手で「育成」する能力を、開倫塾に在籍する間に身に付けてもらいたいと私は希望します。

(5) では、どのように勉強したらよいのか。その具体的な方法をお示ししたのが「学習の3段階理論」です。

Q：そうだったのですか。最後に一言どうぞ。

A：(1) 2012年10月に東京工業大学の学長に就任された三島良直先生は、「若者よ 頭の芯(しん)が疲れ果てるほど、考えよ」と「自覚・熱意・挑戦(Spirit Enthusiasm Confidence)」をキャッチフレーズになさっておられます。

(2) 英語の Spirit(スピリット)には、気力、気迫、勇気、情熱という意味があります。

(3) また、Enthusiasm(エンスージアズム)には、心の中に神が取りついた状態、熱中、熱狂、熱意、意気込みという意味があります。

(4) さらに、Confidence(コンフィデンス)には、自信、確信、大胆さ、度胸という意味があります。

(5) このような英語の一つ一つの意味を確かめながら三島先生のお言葉をかみしめ、これから勉強していただきたいと私は切望します。

— 2012年12月13日記 —